

令和2年度 あわら市の 予算

問合せ 73-8008

「誰もがとぎめくあわら市」を目指して

令和2年度一般会計当初予算の総額は、歳入歳出それぞれ154億1000万円、前年度と比較して7億1000万円、4.8%の増となりました。
この要因として、芦原温泉駅周辺整備事業や北陸新幹線建設事業負担金、北陸新幹線整備関連事業における大幅な増額が挙げられます。

市の貯金

— 財政調整基金

市の貯金である財政調整基金は、令和元年度末で前年と比較して7800万円減の28億1300万円となる見込みです。令和2年度では、財源不足を補填するため7億2000万円の取り崩しを計上しています。

市の借金

— 市債残高

市の借金である市債は、令和元年度末で約180億2700万円となる見込みです。令和2年度では、芦原温泉駅周辺整備事業などの費用に充てるため約17億7400万円の借り入れを予定しています。令和2年度では、前年と比較して約3億3200万円増の183億5900万円となる見込みです。

各会計の当初予算額 (合計 221 億 2115 万円)

一般会計 154 億 1000 万円

市の基本的な行政サービスの経費を収支する会計

特別会計 34 億 1830 万円

保険料など特定の収入で特定の支出に充てる会計。収入の使い道が決まっているため一般会計とは分けています。

国民健康保険特別会計	30 億 5950 万円
後期高齢者医療特別会計	3 億 5380 万円
農業者労働災害共済特別会計	500 万円

企業会計 30 億 8005 万円

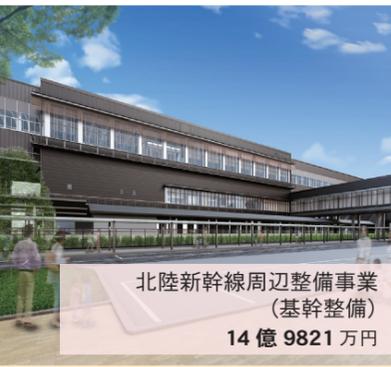
一般の会社と同じように、独自の収入でその経費をまかなう「独立採算」を原則とする会計

水道事業会計	9 億 7812 万円
公共下水道事業会計	21 億 193 万円

芦原温泉上水道財産区水道事業会計 2 億 1280 万円

芦原地区の特定区域（財産区）の水道事業を運営する会計

主な事業の予算額



北陸新幹線周辺整備事業 (基幹整備) 14 億 9821 万円



食品加工施設等整備支援事業 1008 万円



子ども医療費助成事業 8915 万円



移住定住促進事業 1135 万円



空き家活用促進事業 1950 万円

家計簿でチェック

今年度の一般会計当初予算を年収約513万円（3000分の1）の家庭に置き換えて家計簿にしました。

1年間の収入合計 約513万円	
基本給与 (市税)	152 万 8279 円
諸手当 (分担金及び負担金)	7 万 9612 円
副業収入 (使用料及び手数料)	5 万 5431 円
預金の取り崩し (繰入金)	26 万 5239 円
臨時収入など (寄付金、財産収入など)	26 万 9026 円
親からの援助 (交付税、国県補助金など)	234 万 7880 円
銀行からの借り入れ (市債)	59 万 1200 円
貯金残高 (財政調整基金)	93 万 7667 円
借金残高 (市債残高)	600 万 8946 円

1年間の支出合計 約513万円	
食費 (人件費)	85 万 755 円
医療費 (扶助費)	94 万 8741 円
光熱水費、消耗品費など (物件費)	55 万 2086 円
子どもへの仕送りなど (補助費等)	90 万 1258 円
家や車などの修繕費 (維持補修費)	1 万 7442 円
家などの増改築 (普通建設事業費)	95 万 2902 円
借金返済 (公債費)	50 万 5431 円
貯金 (積立金)	4476 円
その他 (予備費、貸付金、繰出金など)	40 万 3556 円

収入をみると、昨年より基本給与は減っており、収入の半分近くは親からの仕送りに頼り、銀行からの借り入れも毎年行っています。今後は、親からの仕送りや借り入れの依存を少なくし、基本給与や諸手当、副業収入の増に努めるとともに、支出を抑えていくことが必要です。

支出では、食費や医療費、借金返済などの節約が難しい経費が約4割を占めています。これまで、食費や光熱水費、消耗品費などを切り詰めてやりくりしてきましたが、今後もより一層の努力が必要です。

一般会計当初予算規模 154 億 1000 万円

